

直近の甲子園出場校		ドラフト関連度	
21夏	阿南光	総合	B
22春	鳴門		
22夏	鳴門	野手	投手
23春	城東	C	B+
23夏	徳島商		
24春	阿南光		

徳島

7月13日～29日（むつみスタジアムほか）

空前絶後の140キロオーバー祭り状態
「夜明け前」の野手たちは夏の奮起期待



香川大翔(池田)

投手編 投手は「球速アゲアゲ」勢揃い

「140キロ超11人」と紹介した2022年を上回る「球速アゲアゲ」が勢ぞろいしている。巻頭のトッププロスペクト名鑑に掲載した吉岡暖（阿南光）、川勝空人（生光学園）に球速で続くのは、香川大翔（池田）と岡一成（城東）だ。岡は最大出力を引き上げるためのトレーニング、香川は柔軟性を最大限生かすフォームで夏のベストパフォーマンスを期す。

2年夏に捕手から投手に転向し、すでに141キロに到達しているのは目下誠士（徳島北）。長らく課題だった心身のコントロールに成長の兆しが見えてきた。招

待試合で大阪桐蔭相手にスライダ1、チェンジアップが通用した左腕・芝山亮（富岡西）や、三塁からリリーフ登板する岡田力樹（鳴門渦潮）らの競演も楽しみだ。さらに生光学園で川勝と二枚看板を組む身長185センチ・大山健志に、トレーニングを経て最速138キロと約10キロ球速を伸ばした左腕・宮内侃文（徳島科学技術）、1年ぶり単独参加に高ぶる三宅悠翔（脇町）。酒部理育（鳴門）らが140キロを視野に集大成の夏に挑む。

2年生にも好素材が続々。1年秋から鳴門投手軍団の団長格である大門遼平、アスリート能力が高い藤倉和人（城東）、夏は隠し玉的存在になりそうな佐坂翔太（板

野）はいずれも140キロ台を計測。重量感あるストレートが持ち味の赤澤悠哉（徳島北）、普段は三塁を守る橋本朋来（鳴門）らも140キロを見据える馬力を備えており、夏は徳島史上初の「140キロ超12名」以上が誕生するかもしれない。

野手編 野手は「夏の夜明け」に期待

今年の徳島野手陣は「いまだ夜明け前」の選手が多い。捕手では地肩は全国屈指の上原知也（鳴門）だが、実戦での送球の正確性と打撃に課題を残す。186センチ83キロとスケール感が売りの島瀬太朗（城南）や谷口昊汰朗（城東）は二塁送球タイムの短縮、大工一

徳島の主な注目選手

守備	名前	所属	学年	身長	体重	投打	評価	コメント
投手	吉岡 暖	阿南光	3	182	85	右右	B	6月の招待試合で大阪桐蔭に2失点無四球完投勝利。球速も回復してきた
投手	香川 大翔	池田	3	165	75	右右	C	大先輩・梶田茂生（日本生命監督）を想起させる魂の投球で押し込む
投手	岡 一成	城東	3	177	89	右左	C	アペレージで140キロ前半計測も公式戦で勝ちきれない。配球に工夫を
投手	藤倉 和人	城東	2	173	77	右左	C	中堅手兼任ながらすでに140キロ超のキレ味鋭いストレートを連発する
投手	川勝 空人	生光学園	3	181	84	右右	B	エース・4番に加え、個性派集団を個性で束ねる主将としてもよい働き
投手	赤澤 悠哉	徳島北	2	179	92	右右	C+	捻りのきいたフォームで最後までリリースを見せず、重い速球投げ込む
投手	大門 遼平	鳴門	2	173	70	右右	C	練習試合では好調を継続中。最速141キロ突破へ、さらに状態上げよう
捕手	上原 知也	鳴門	3	174	85	右右	C+	遠投120メートルの超強肩。二塁送球の正確性は次のステップでの課題
二塁手	横手 亮汰	徳島商	3	170	70	右左	C	春は捕手も務めたスピードスター。広がった野球観をプレーで表現する
外野手	福田 修盛	阿南光	3	180	86	左左	C+	逆方向に伸びる打球は木製バットの方が合うのでは、と思わせる振り